

小山小・八木北小学校

# 学区変更は大義なし！

## 新設校は1校では足りません

H27年度に続き、また学区変更

小山小学校に入りきらないからと変更案

今年4月、市教育委員会は、市議会にH35年度までの児童・生徒数及び学級数の推計・想定値を公表。小山小学校と八木北小学校の学区変更案を示しました。

市教委は、「小山小学校に入りきらない」、「東武線をくぐる都市軸道路を横断すべきではない」と、H27年度、おたかの森駅周辺の学区変更につき、今度は、八木北小学校との学区もH32年度に変更する計画です。

学区変更では解決できなません

①学区変更だけでは解決するの？  
②そもそも本市の学校適正規模ってどれくらい？という2つの課題解決が明確化する必要があります。

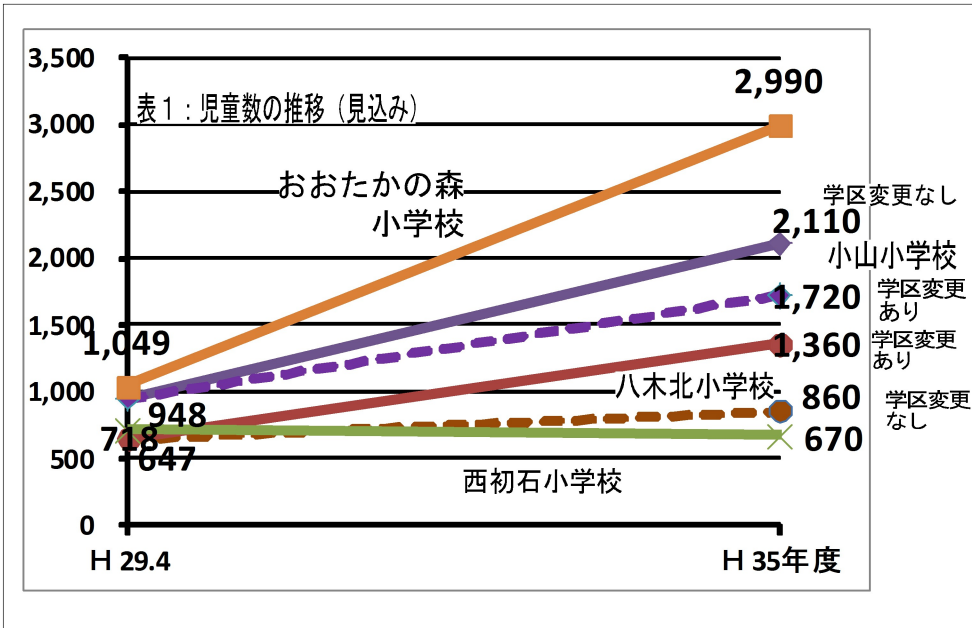
3月市議会、日本共産党小田桐たかし市議の質問に市教委は、小中学校の適正規模は「18学級」と明言し、過大規模校(マンモス校)における課題も言及【※くわしくは、5月15日発行の「議会だより」159号をご覧ください】。さらに「今後、適正規模の在り方を教育委員会議等で議論を深める」としていました。

にもかかわらず、6月議会では根拠もなく、議論

も深めず、市民の意見も聞かず、「48学級が最大規模」と方針を突然発表したのです。

区画整理にも汚点

そもそも、おたかの森駅周辺は計画的でより良い街づくりと称して、区画整理を実施中です。地権者は土地を平均4割も提供し、事業推進に協力させられながら、自分の地域や自治会の子どもや孫は近くの学校に通えない…これでは「地域の諸課題を解決する」と褒めちぎられた『区画整理』にとっても汚点を残すものとなっています。



市議

小田桐たかし

# おおたかの森小学校でも学区問題／全国一のマンモス校が市内に乱立

## 学校整備計画「変更した責任者は私」と市長答弁

### 歴史の逆行、5校分を2校に集約

#### 31学級が分離新設の目安が...

表1のとおり小山小学校は、今年4月児童数948人がH35年度には2110人となり、学区変更で1720人に抑えたいというもの。しかし、上表のとおり学区変更の有無にかかわらず、八木北小及び小山小学校2校に90学級以上となります。これは、文科省や市教委が「学校の適正規模は18学級」としていることから5校分の児童を2つ小学校に詰め込むことになりません。しかも、『学校の分離新設の目安は31学級』という文科省通知を市長も「知っている」と6月議会で答弁しました。これは、過大規模校を分離新設し、適正規模校で子どもの学びを保証してきた教育界や本市の歴史に逆行する許されない政策判断です。

学級数の推移		学級数	
		H29.4	H35
学区変更	八木北小学校	25	31
ナシ	小山小学校	32	62
学区変更	八木北小学校	25	46
アリ	小山小学校	32	52
西初石小学校		22	22
おおたかの森小学校		35	88

### 新設小学校も課題山積

H33年4月開校予定の新設小学校も課題山積です。予定地は、流山自動車学校の近くの大畔地先（市街化調整区域）。住宅も子どもも少ない地域になれば通学路は長距離に。おおたかの森小学校との立地、教室不足を考慮すれば、学区設定に無理がうまれます。「中1ギャップ」の解消という併設校最大のウリも新設校には活かせません。更に防災や地域

コミュニティの拠点という機能も不十分さが残るでしょう。

#### 学童も深刻

おおたかの森小学校の学童は将来400人規模に。市長は「1室40人規模で仕切る。児童全部の名前なんか覚えなくてもいいし、心配ない」と答弁。深刻さが1つも分かかっていません。

### 子どもの学びや成長こそ優先

#### 一番安上がり

「なぜ学校新設ではなく学区変更？」

「なぜ子どもが増えている地域に学校をつくらないの？」：一番安上がりだからです。前市長時代を「危機的財政」と批判して就任した現市長のメンツを最優先しているからです。

#### 市民運動を広げよう

「新設校は1校」という市長の政策決定だけが独り歩きし、児童生徒の推計・想定が無視されたり、おおたかの森駅周辺の小中学校が相次ぎ過大規模校となることは、元々市内に住む方も、新しい転入者も望ん

でいけません。

ましてや教育環境の主役は児童生徒です。いじめ自殺が全国どこでも発生する一方で、教員の過密労働も深刻です。

20〜30年前、今の半分程度の予算規模でも子どものために学校を整備してきた歴史を本市は持っています。今こそより子どもの学びや成長がなによりも保証する良い教育環境の整備に力を集めましょう。